

令和4年度 羽島市民病院運営委員会

令和5年2月21日(火)14:00～
市民病院 講義室(診療棟3階)

○市長あいさつ

○会議次第

- ・ 議題1 令和4年度決算見込みと中期経営計画2025の取り組みについて
- ・ その他

羽島市民病院運営委員会委員名簿

(敬称略)

	役職	部 門	氏 名
1	委員	知識経験者	豊島 信征
2	委員		岩田 千里
3	委員		前田 京子
4	委員		林 由美子
5	委員	羽島市医師会の推薦があつた開業医師	田中 吉政
6	委員		岩佐 充矩
7	委員		河合 清隆
8	委員		黒田 淳
9	委員		永木 正仁
10	委員	市及び病院代表	石黒 恒雄
11	委員		山田 卓也

令和4年度決算見込みと中期経営計画 2025 の取り組み

1. 令和4年度概要

当年度も新型コロナウイルス感染拡大が続く中、当院は新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関の重点医療機関¹⁾(以下、「重点医療機関」として)の役割を果たしつつ、地域住民が住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続けることができるよう中期経営計画 2025 のビジョンとして掲げた「地域住民に寄り添い頼られる病院」「安心して明るく働きがいのある職場環境」「持続可能な病院運営体制」の実現を目指しています。昨年度に引き続き、5つの重点課題に対する施策ごとに実行推進メンバーを院内公募し、関係部署等と調整を図りながら取り組みを推進しています。

令和3年度末に総務省から「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が発出され、公立病院の経営強化の必要性が示されました。当院では令和6年度を経営強化プランの開始年度とし、本ガイドラインに基づき協議を開始しています。

2. 令和4年度中期経営計画 2025 の取り組み

重点課題1「地域包括ケアシステムへの貢献」

目的	地域住民が住み慣れた地域での暮らしを支えていくために	
<p>羽島市唯一の病院として、急性期医療・救急医療・回復期医療に加え、疾病予防、重症化予防、介護予防の役割を担っていきます。地域の医療機関の「かかりつけ医」の定着を推進するための連携強化を図り、役割分担を進め、薬局・歯科・介護福祉施設・ケアマネージャー・行政等との連携を推進していきます。</p>		
令和4年度の主な取り組み		
内容	<p>● 病診連携及び病病連携の促進 救急外来受診後のシームレス²⁾な連携を図るため、救急医療センターの受診患者にかかりつけ医及び適切な専門医への診療勧奨の案内を作成し配布しました。 羽島市医師会、岐阜保健所とともに、地域の医療機関に対し感染対策合同カンファレンスを2回開催しました。 認知症看護認定看護師、感染管理認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師³⁾が特別養護老人ホームやグループホームに訪問し、認知症ケアや感染対策、看取り等の指導及び研修を実施し、また、市民向けの講座に出向き、健康維持や介護サービスについて講義を行いました。</p> <p>● 口腔ケアの実施・アクティビティ・ケア⁴⁾の実施 口腔衛生や摂食嚥下機能の向上、感染症予防のために、歯科医師の指示による口腔ケアを歯科衛生士が実施しています。また、看護師及び言語聴覚士が、認知機能や身体機能の悪化の予防を目的としたアクティビティ・ケアを実施しました。</p> <p>● 退院前カンファレンス・退院前後訪問のあり方を考え実践 退院前カンファレンスについて、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、オンライン⁵⁾での開催の体制を整備しました。今後、看護師、リハビリスタッフなど多職種による退院前後訪問の体制を整備し行っていきます。</p>	
	主な効果	紹介患者数の増加: 前年度比 71 人増見込 逆紹介患者数の増加: 前年度比 283 人増見込 連携登録医療機関の増加: 前年度比 2 件増見込

重点課題2「市民との信頼関係の構築」

目的	地域住民に寄り添い頼られる病院であるために 「信頼性」「安心感」「共感」を与えられるよう患者サービスの充実、広報活動を推進します。
令和4年度の主な取り組み	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者サービスの拡充 院内売店の見直しとして、市内の小売店とコラボイベントを企画しました。また、コンビニの出店、コンビニ自動販売機の設置など、サービスを拡充しました。 ● 病院の環境改善 高齢者、障がいを持つ方にとっても利用しやすい病院となるため、案内表示、動線、受診フローなどについて病院内ラウンドを実施し、点検を行いました。 全病棟にWi-Fi⁶⁾環境を完備しました。 ご家族に向けたサービスとして、インターネットによる遠隔での面会(リモート面会)の仕組みを整備しました。 ● ホームページのリニューアル ホームページのリニューアルに向けた協議を行っています。職員からアイデアを募り、ホームページを通じて病診連携を推進できるよう内容を充実させていきます。
主な効果	退院患者アンケート満足度 80 点以上 : 78% 見込 リモート面会件数 : 343 件見込

重点課題3「自律型人材の育成」

目的	職員から信頼され明るく働きがいのある安心な職場環境とするために 職員同士の顔が見える関係づくり、多様性を受容し主体的に考えることができる自律型人材の育成を図ります。
令和4年度の主な取り組み	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 自立型人材育成に関する取り組み 看護部において、次世代の管理者に向けてマネジメント手法である「合意形成」や「ファシリテーションスキル」⁷⁾研修を実施しました。また、専門資格の取得支援を行うとともに、取得状況についてホームページに掲載しています。 ● 職員満足度調査の分析と課題抽出 令和3年度に実施した職員満足度調査を前年度と比較分析し、職員満足度の向上を図っています。看護部では働き続けられる勤務環境づくりのために、勤務時間に関する協議を行っています。
主な効果	看護師特定行為研修 ⁸⁾ 受講中(令和5年度取得見込) : 1名 看護師特定行為研修受講決定者(令和5年度新規受講) : 3名 認定看護師研修受講中(令和5年度取得見込) : 1名

重点課題4「健全な病院経営」

目的	持続可能な病院運営を行っていくために
<p>必要な医療者の確保に努め、診療圏のニーズや診療体制の変化にあわせた、広域的な病病連携を図っていきます。継続的な経営改善活動の推進、コスト意識をもって効率的・効果的な運営体制を構築し、持続可能な経営を目指します。</p>	
令和4年度の主な取り組み	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 常勤医師の招聘 整形外科及び婦人科の常勤医師を増員しました。 ● 患者数の確保 病病連携・病診連携の活動を通して入院・外来患者数の確保に努めました。また、レスパイト入院⁹⁾について開業医、ケアマネージャー、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション等へ案内し、ホームページに掲載しました。 ● 医薬品費の削減 後発医薬品への更なる切り替え、他病院の購入価格を比較できるシステムを活用し購入単価の引き下げに努めました。 ● 問診効率化システム¹⁰⁾の導入 外来診療の効率化や感染症対策を踏まえ、一部の診療科において非接触で事前問診が行える問診効率化システムを導入しました。
主な効果	<p>手術件数の増加：前年度比 75 件増見込 医薬品費の見直しによる削減：約 3,381 千円見込</p>

重点課題5「災害時における医療・新興感染症対策等の政策医療の確立」

目的	災害時・新興感染症等の発生時に地域に必要な医療提供をするために
<p>災害を想定した防災訓練等の実施により、必要な体制の整備を図ります。新型コロナウイルス感染症等の新興感染症への対応可能な体制を確立していきます。</p>	
令和4年度の主な取り組み	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害・防災訓練等の充実 災害対策マニュアルの適時見直しを図るとともに、災害時の緊急連絡方法の見直しを検討しています。 ● 新型コロナウイルス感染症患者等の受け入れ体制の構築 重点医療機関として新型コロナウイルス感染症患者等専用の受け入れ病床を確保しつつ、感染拡大時には、更なる医師、看護師等の協力により、受入可能人数に対して柔軟に対応しました。また、地域の医療機関、高齢者福祉施設等と感染対策の連携を図りました。 ● 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用 抗菌かつ消毒に耐性のある素材を使用した患者用待合椅子の整備、新型コロナウイルス感染症の検査試薬の確保、電気・ガスの高騰に対する新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源とした支援により、感染防止とともにコロナ禍における医療提供体制の維持に努めました。
主な効果	重点医療機関の指定の継続

3. 収支状況

(単位 百万円)

		令和3年度	令和4年度	前年度
		決算	決算見込み	増減
収入	1. 医業収益 (A)	4,365	4,575	210
	うち、入院収益	2,740	2,981	241
	うち、外来収益	1,320	1,349	29
	2. 医業外収益 (B)	1,420	1,408	▲ 12
経常収益 (A)+(B) (C)		5,785	5,983	198
支出	1. 医業費用 (D)	5,511	5,801	290
	うち、給与費	3,324	3,427	103
	うち、材料費	785	791	6
	うち、経費	1,063	1,184	121
	2. 医業外費用 (E)	270	241	▲ 29
経常費用 (D)+(E) (F)		5,780	6,042	262
損益等	医業損益 (A)-(D) (G)	▲ 1,146	▲ 1,226	▲ 80
	(参考) 医業損益+新型コロナウイルス感染症 関連補助金	▲ 302	▲ 426	▲ 124
	経常損益 (C)-(F) (H)	5	▲ 59	▲ 64
	特別損益 (J)-(K) (I)	▲ 26	▲ 41	▲ 15
	1. 特別利益 (J)	3	2	▲ 1
	2. 特別損失 (K)	29	43	14
	純損益 (H)+(I)	▲ 22	▲ 100	▲ 78

注) 令和2年度より感染症対応として一部病床を休止しており、医業外収益に逸失収益等に相当する新型コロナウイルス感染症関連補助金(R2:951百万円、R3:844百万円、R4見込:800百万円)を含んでいます。
百万円単位表記により計が一致しない場合があります。

4. 主要経営指標

	令和3年度	令和4年度	前年度
	決算	決算見込み	増減
経常収支比率	100.1%	99.0%	▲ 1.1 ㊦
医業収支比率	79.2%	78.9%	▲ 0.3 ㊦
給与費対医業収益比率	76.2%	74.9%	▲ 1.3 ㊦
材料費対医業収益比率	18.0%	17.3%	▲ 0.7 ㊦
病床利用率(271床)	57.8%	61.9%	4.1 ㊦
1日平均入院患者数	157人	168人	11人
1日平均外来患者数	421人	418人	▲ 3人
入院単価	47,934円	48,719円	785円
外来単価	12,955円	13,279円	324円
紹介患者数	5,598人	5,669人	71人
逆紹介患者数	5,675人	5,958人	283人
常勤換算医師数(年平均)	43.7人	46.6人	2.9人

5. 全体を通しての分析・まとめ

● 新型コロナウイルス感染症への対応

コロナ禍も3年目に入り、令和4年1月から続いた新型コロナウイルス感染拡大の波である第6波は長期化し、その後過去最多の感染者を更新した第7波、そして更に第8波が現在も継続しています。その間、当院では診療機能を止めることなく、通常診療を継続する一方で、新型コロナウイルス感染症患者等の入院の受入れ、発熱外来における検査対応、陽性者の診療対応など、重点医療機関としての役割を果たしています。

● 令和4年度の経営状況

病院の経営環境については、引き続き厳しい状況であるものの、前年度より患者数が回復傾向にあり、収益のうち、入院収益及び外来収益が前年度と比較して増額し、医業収益は210百万円の増加の見込みとなりました。一方で、費用については、主に電子カルテの更新に伴う減価償却費の増等に加え、電気料金、ガス料金の高騰による経費の増など自院でのコントロールが困難な費用の増加も加わり、医業費用は290百万円の増加が見込まれる状況となっています。

● 今後の課題及びまとめ

公立病院の経営強化ガイドラインでは、公立病院は、期待される役割・機能を果たし、医療従事者の確保の他、新興感染症やデジタル化への対応が求められています。

新型コロナウイルス感染症は、国において令和5年5月8日から感染法上の分類を2類から5類へ見直しの方針であることが公表されている状況です。引き続き新興感染症を含む感染症患者に適切に対応することは、地域の基幹病院として救急医療・急性期医療体制の維持、そして今後更に増していく高齢者医療・回復期機能需要に対応していくことと併せて当院の使命と考えております。

また、デジタル化への対応として令和3年10月よりマイナンバーカードによるオンライン資格確認の導入、令和4年3月には問診効率化システムを導入しています。そして、電子処方箋については令和5年10月からの対応を予定しています。

地域住民や地域医療機関との信頼関係を深め、地域から求められる医療に対応できる医療提供体制の確保、地域包括ケアシステムへの貢献に努めます。

語句説明

- 1) 重点医療機関 ……新型コロナウイルス感染症患者専用の病院や病棟を設定する医療機関のことである。都道府県によって指定される。
- 2) シームレス ……異なる段階の機能やサービスが途切れないことである。
- 3) 認定看護師 ……ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師をいう。
- 4) アクティビティ・ケア ……アクティビティ・ケアの役割は、予防としての役割、機能訓練としての役割、生活の質の維持としての役割がある。認知症に対するアクティビティ・ケアの活動としては運動、音楽、趣味、手芸、ゲームなどがある。
- 5) オンライン ……インターネットに繋がっている状態である。また、オンラインでの会議とは、各自が所有しているパソコンやスマートフォン、タブレットを使用し、会議を行うことで遠隔からの参加が可能となる。
- 6) Wi-Fi ……無線でインターネットに接続する技術のことをいう。無線 LAN に関する登録商標である。
- 7) ファシリテーションスキル ……会議やミーティングを円滑に進める技法のことをいう。また、その場を進行するだけでなく、参加者の意見を理解し整理する役割があり、最終的には議論を収束させ、適切なゴールへと導くサポート役ともいえる。
- 8) 看護師特定行為研修 ……「特定行為に係る看護師の研修制度」は、保健師助産師看護師法に位置付けられた研修制度で、平成 27 年 10 月に創設された。手順書により特定行為を行う場合は、本研修の受講が必要となる。
- 9) レスパイト入院 ……レスパイト(respite)とは「一時休止」「休息」という意味。レスパイト入院は、在宅で介護を担う方の疲労を軽減するための短期入院のことをいう。
- 10) 問診効率化システム ……書面による問診票の代わりに専用のタブレットを使用した事前問診のことである。